

子どもたちの未来を考える

8号



当会の略称は「子どもの権利・すすめる会」です。

(連絡連絡先・代表 古谷 高子)

TEL/08020073558

mutenkaningen2008@docomo.ne.jp

みんなの学校、元校長木村泰子さんの講演を聞いて

小林章子

「みんなの学校」それは大阪市立大空小学校のドキュメンタリー映画の題名です。

全国から50人以上の方がお子さんを大空小学校に通わせたくて引っ越してこられた。大空小学校では不登校0。これはすごいことです。でも木村先生のようなカリスマがいなければ無理なことなのでしょうか??? 2月28日のNPO法人子どもアミーゴ西東京主催の講演会は500席ほぼ満席。木村さんのお姿は全く飾り気のない自然体でした。

大空小学校の特徴は、

- (1)生徒、先生、保護者、地域の方達は皆対等で一人一人が学校を作ること。
(校長先生はコーディネートするだけで外部の圧力からみんなを守ります。)
- (2)4つの見えない力『人を大切にする力、自分の考えを持つ力。自分を表現する力、チャレンジする力』を育てること。
- (3)たったひとつの約束『自分がされていやなことは、人にしない、言わない。』を大人も子どもも守って、守れなかったときは校長室に『やり直し』に来ること。 です。

また、保護者の方が毎日トイレ掃除にいらしたり、地域の高齢者の方が、走り回るお子さんの相手をされたり、登下校を毎日見守ったりして、すべての子どもが、安心して、自分らしく育っていけるように、診断名や先入観にとらわれず沢山の目で今目の前にいる子どもの育ちを見守っています。その中で泣いたり騒いだり、何も言えなくてうつむいた子どもたちも「一生懸命何かを伝えようとしているんだね」と周りに受け止めてもらえて、「自分が感じていること、考えていることが周りや違っていいんだ。自分を信じてみよう。自分はここにいていいんだ。思い切って自分の想いを伝えてみよう。」うまいかない時はきっと誰かが助けてくれる・・・と自分も人も信じる力を育てていきます。

「子どものことはわからない。だから子どものことは子どもに聞く。わかったつもりにならない。」「教える専門家から学びの専門家へ。」木村さんの最後のメッセージは今も強く私の心に残っています。

木村さんはみんなの心を引き付ける、とても魅力的な方。聴く側の反応を敏感に感じとって、慎重に、でも満身の力をこめて直球ボールを投げてこられます。そんな木村さんも沢山の失敗を重ねては「やり直し」をしてこられたそうです。全ての子どもは自分らしく主体的に生きるための大人と対等な権利をもっています。子どもが大人の期待どおり思い通りに行動してくれない時こそ、子どもの主体性を育て、大人が自分の本音を伝える「やり直し」のチャンスではないでしょうか?

「大人の期待、周囲の空気に合うように、ひたすら生きてきて、夢や希望なんて持てる筈がない。就活の為にありもしない夢や希望を一生懸命語って落ちたら、生きているのが馬鹿馬鹿しくなる。」こんな大学生の言葉を切々と語っておられた、若者の自殺防止に取り組む、ライフ・リンクの清水さんのお姿が、お話を伺いながら、ふとまぶたに浮かんできました・・・

もっと知りたい方は『みんなの学校』が教えてくれたこと(小学館)をぜひご一読下さい!



写真:みんなの学校チラシより



自分も相手も大切にしたい自己表現 アサーティブ・トレーニング



自分も相手も大切にしたい自己表現を身につけていく。そんなトレーニングが今身近な人間関係で取入れられています。

自己表現には3つのタイプがあるといわれています。

- (1) ノン・アサーション(非主張型)、
- (2) アグレッシブ(攻撃型)
- (3) アサーション(攻撃型と非主張型のバランス型)

(1)は、NOと断ることができず後で心の中にモヤモヤが残るタイプ。自分の意見を言わないだけでなく、あいまいな言い方の後、恨みがましい気持ちが残ってしまいます。

(2)は、自分の主張ははっきり言えるが、相手の気持ちを無視し、自己の主張を押し付けるタイプ。

(3)は相手も自分もどちらも大切にしたいタイプ。自分の気持ちを正直に率直に表現し、相手の意見を同じように聞くことができます。意見がぶつかることを知っていて、意見がぶつかった時に自分の意見をすぐに折ることをしないでお互いの意見を出し合い、譲ったり譲られたりしながら双方にとって納得のいく結論をだそうとします。

“我慢ではなく適切な感情表現”はアサーションの「自己受容権利」です。感情を伝えることも、伝えないことも状況に合わせて自由に選ぶことも権利です。が、本当の自分の気持ちを隠していると次第に自分の気持ちがわからなくなり、体が不調になったり、重症の場合うつ病になってしまうこともあります。ネガティブな感情に気づかず無理にポジティブに明るく振る舞うことが続くと本当の自分の感情との矛盾を抱えてますます辛くなることもあります。

表現として、主語を「あなた」ではなく「私」に変えるだけで批判的な発言に聞こえないことがあります。相手を非難するより、自分がその言葉、行動でどう思ったかを伝えます。

人間関係には「正解」はありません。失敗を恐れず、責任を持つことは私たちの権利でもあります。失敗という経験からでしか学べないこともあります。反省は、自分の行動を振り返り次の行動に生かすことができるのですから。

それぞれの権利を大切に育む子育て共育ち。
いかがでしょうか。(小田桐孝子)



子どもたちに最良の文化を



子どもげきじょう西東京は、今から28年前誕生しました。地域のすべての子どもたちが心豊かに育つことを願い、プロによるナマの素晴らしい舞台を届けたいとの思いで活動を続けてきました。また、会員による自主的な活動(あそび)も、大切な柱としています。

最盛時には700人を超す会員を誇ってきましたが、少子化などの社会構造の変化や、ゲームなどの子どもの遊びの変化、文化の多様化などとともに会員は減少しています。

けれども、年1回こもればホールとの共催の“ふれあい子どもまつり”や、近隣のげきじょうとともに鑑賞するステージを行っています。また、西東京子ども文化フェスティバルにも参加して少ない会員ながら活動をつづけています。

このところ宣伝活動にまで手が回らず、会の存在が忘れられがちですが、これから宣伝にも力を入れて会員を増やし、子どもたちにナマの舞台を届けたいと思っています。子どもたちは、最良の文化を享受する権利を持っているのですから……。

(子どもげきじょう西東京代表 権藤成)



待機児童解消は?

すべてのこどものための居場所って?

～注目!! 子育て・子育てワイワイプラン
と 子ども子育て審議会～

「子育て・子育てワイワイプラン」(注:1)を知っていますか?子どもたちが個性を発揮しながら自分の力で育っていくことをサポートし、保護者が地域で安心して子育てできる環境を整えていくために、西東京市がどんな施策・事業に取り組むかが書かれています。

現行計画は2015年4月から10年間。定期的に施策・事業の進捗状況を確認し、評価を行いながら進めていくことが重要で、計画の進捗、制度や事業等についての確認・点検は子ども・子育て審議会が担うことも明記されています。今年度の同審議会は7月から始まる予定ですが、この作業も大きな役割の一つになっています。

審議会には保育園、幼稚園、学童クラブの保護者の代表も委員として参加していて、学識経験者、行政関係者、子育て支援者等と共に子どもの育ちと子育て支援について熱い議論が展開されています。

ワイワイプランが初めてできた時から、「子どもの権利の実現」が位置付けられ、子どもの権利に関する条例等の策定及び子ども救済システムの検討も行われてきました。

2004年2月に最初のワイワイプランが策定されてから、あっという間に12年が経ってしまいました。

西東京市の子どもに関する条例は完成一歩手前でとまったままですが、決して諦めず、一刻も早く解決しなくてはならない保育園の待機児・学童クラブの定員超過問題をはじめ、子どもを取り巻く現状について議論が繰り広げられる子ども子育て審議会と一緒に注目していきましょう。(大友禾弘子)

(注:1)西東京市の子育て支援計画。子ども・子育て支援法に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画に、次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画が併記された計画です。